

目標達成計画

作成日:令和7年11月24日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	54	○居心地よく過ごせる居室への配慮 昨年目標に掲げながら、達成できなかった項目。整理整頓だけでなく、壊れたり不足したりした生活用品がそのまま整えられていない点も反省点となった。 最低限の物ではなく、暮らしを豊かにすること、使いやすさに目を向けた環境整備をしたい	・いつでも気持ちよく過ごせるよう、清潔、整理整頓など基本的なことが常にできている ・本人に必要な生活用品が不足なく整えられる	①清潔、安全、使いやすさなど基本的な環境整備を行う ・掃除は毎日行う箇所と定期的に確認していく箇所を分け、安全点検も併せて行っていく(チェック体制も考える) ・室温や湿度、空気の循環など季節に応じ、窓を開けたり空調を調整したり心地よさが保てるようにする ②本人に必要な生活用品が常に揃っている状況にしてい ・本人の状態、嗜好、馴染みなど幅広い視点で必要なものを考える ・壊れたものや不具合の生じたものは速やかに対応する	6か月
2	19	○本人を共に支えあう家族との関係 家族に対して、こまめな連絡や報告をしているが健康状態の異変や依頼ごとなど伝えることだけになっている。本人と家族との関係や家族視点にまで目が向いていないかもしれない。	・家族から本人の姿についての疑問や願いを聞き取れる機会が増える(家族が伝えやすい関係性ができる) ・家族と職員だけの情報連絡にならず、本人と家族がお互いのことがわかるような支援ができる	①本人の普段の姿がわかるような発信の工夫 ・普段の様子を口頭で伝えるだけでなく、生活場面の写真を多く撮影しアルバムにしたり、送付したりする。 ②家族が言いやすい、伝えやすい雰囲気づくりに努める ・連絡事項を伝えたのちに必ず疑問や願いを聞くようにする ・伝えたり依頼したり一方的にならず、家族の状況もお聞きする ③本人と家族が直接繋がることのできる工夫 ・電話連絡時は、本人と話す(声を聴く)機会を設ける ・手紙や動画を活用してお互いの姿がわかるようにする ・家族が参加できる食事会や旅行などを定期的に開催する	12か月
3	20	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人のこれまでの暮らしの中で馴染んできた場所や人について、具体的に把握できていない。今の必要な介助が大半で、手紙が届いてもそれを活かしてきれていない ※外部評価機関より次のステップに向けて助言を受けた項目	・本人の生活史の中で大切な場や人について、身近に感じられ、思い出したり懐かしんだりできる ・馴染みの場へ出かける機会や会う機会がもてる	①本人のこれまでの暮らしの中での大切な場や人について、出かけてなくても、普段の生活に取り入れられるようにしていく ・全職員が、その情報を知ることが必要 ・普段の会話にその場や人の話題を多く取り入れる ・その場や人が目や耳で感じられるよう、アルバムや手紙映像などが豊富に揃えられる ・手紙の返事を書いたり、電話したりできる支援を行う ②馴染みの場、行きたい場所に出かける機会を持つ	12か月
4	27	○個別の記録と実践の反映 利用者の発した言葉や行動をそのまま残すように努めているが、状況を辿ったり、次の対応のために記録を読み返した際に、読み取れない(わからない)ことが多い	・介護計画に関する記録が残される ・本人の言葉や行動が丁寧に記録に残っている	・介護計画を正しく理解把握できるよう、計画書を丁寧に確認し、あいまいな点は自己解釈せず、担当者に確認する ・発した言葉はそのまま記録する。また不適切な言葉を使用しない、職員の感想にならないなど、記録の基本を学ぶ機会を持つ ・異変時はその時だけでなく、経過を見ていくためにその後の様子も丁寧に残していく ・不足はお互いに声を掛け合い、忘れないうちに記録する	12か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。